

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.9 (1966. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660901--001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660901--001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

# 三田学会雑誌

1966年 9月号

## 論 説

- 産業社会学の動向とその課題……………青 沼 吉 松 1
- ヴィクスーヴィラの転換について……………宇 尾 野 久 19
- 規模の経済性とレオンティエフ投入係数の変化……………尾 崎 巖 42

## 研究ノート

- 回帰線導出の方法(二)……………佐 藤 保 84

## 書 評

- 戸塚秀夫著  
『イギリス工場法成立史論  
——社会政策論の歴史的再構成』……………飯 田 鼎 99
- M. ガロ  
『18世紀ガティヌにおける土地制度と農民』……………渡 辺 國 廣 103

## 新刊紹介

59 卷 9 号

昭和四十二年九月一日発行  
第三種郵便物認可  
毎月第一日発行

昭和四十二年八月一日発行  
第三種郵便物認可  
毎月第一日発行

三田学会雑誌

昭和四十二年八月号

定価 金二〇〇円(送料別)

# MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 59, No. 8

August, 1966

## CONTENTS

### Articles

- Der junge Marx und sein Kreis  
——D. Vom Begriffe „Proletariat“——……………A. Hirai 1
- An Essay on Social-policy and Labour  
Economics——A Note on Theories of  
Prof. Sumiya and Prof. Ujihara——……………K. Iida 34
- Note and Memoranda
- Methods of Regression……………T. Sato 55
- Some Notes on Embodied Technical  
Progress……………H. Tanaka 74
- Survey of Academic Circles
- Industrialization and Foreign Trade:  
A Historical Survey……………K. Watanabe 85
- Book Reviews
- T. Yasuhira: Comparative Economic Growth,  
U.S.A. and U.S.S.R., 1966……………H. Kato 93
- H. Niwa: Economics of Soviet Planning, 1966……………A. Kutsukake 97
- T. Miyagawa: An Introduction to Econometrics……………A. Kutsukake 97

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial Communications to be sent to  
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,  
Keio University,

Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 200 yen

新刊紹介

大来佐武郎著『アジアの中の日本経済』……………	深海博明	109
西村孝夫著『インド木綿工業史』……………	三宅昱子	110
越智武臣著『近代英国の起源』……………	安元稔	111
天川潤次郎著『デフォー研究——資本主義 経済思想の源流』……………	原田敏彦	112
J. D. チェンバース著『世界の工場——イギリス経済史 宮崎肇一・米川伸一訳 1820—1880』……………	栗本慎一郎	113

産業社会学の動向とその課題

青 沼 吉 松

一 産業社会学の成立とその動向

社会学者と経済学者がほぼ同じような対象を取り上げて、それをそれぞれ独自の角度から分析した典型的事例として、  
業論におけるエミール・デュルケームとアダム・スミスがあげられる。前者は分業を社会連帯性の観点から問題にしたの  
たいして、後者はそれを技術的な意味に限定しながらではあるが、生産力のそれから取り扱った。共通の研究対象を異な  
た角度から究明することによって、両者の間には、学問的協働が見出される。このような多角的分析をまっ  
て、理論は実践  
に近づくことができる。

この事例にもかかわらず、経済現象への社会学的方法の適用は順調には発展しなかった。ドイツにおける経営社会学の形  
成、わが国での高島善哉などによる経済社会学の提唱はあったが、それらは実りの多いものではなかった。産業社会学とい  
う名称のもとでのこの研究分野の急速な発達、一九四〇年代以降のものであった。

この産業社会学の発端を開いたのは、エルトン・メイヨーによって指導されたホーソン実験の成果であった。ここでは、  
産業社会学の動向とその課題